

様式C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成21年 5月 15日現在

研究種目：基盤研究（B）
研究期間：2005～2008
課題番号：17320013
研究課題名（和文）東アジア文化圏における宗教的対立と融和に関する研究
研究課題名（英文）A study of religious conflict and assimilation in the East
Asia cultural sphere
研究代表者 藤井 教公 (FUJII KYOKO)
北海道大学・大学院文学研究科・教授
研究者番号：70238525

研究成果の概要：

本研究は、東アジア文化圏において仏教移入以前に存在していた儒教や、仏教との関わり合いの過程で発展していった道教、さらに極東アジア日本の古代からの神祇信仰などの諸宗教が、それぞれどのように対立し合い、またその対立をどのように超克していったかという問題を、仏教を基軸にして中国・日本を中心に古代から中世の時代に亘って、それぞれの地域、それぞれの時代ごとにトピックを設定して検討したものである。

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2005年度	2,600,000	0	2,600,000
2006年度	2,300,000	0	2,300,000
2007年度	2,200,000	660,000	2,860,000
2008年度	1,700,000	510,000	2,210,000
総計	8,800,000	1,170,000	9,970,000

研究分野： 中国日本仏教

科研費の分科・細目： 哲学 ・ 印度哲学・仏教学

キーワード： 神仏習合、仏教批判、朱子学、道教、儒教、陽明学、法華経、談義

1. 研究開始当初の背景

本研究は東アジア文化圏を一つのまとまりのある宗教文化圏として捉え、その中で仏教を基軸に据えて諸宗教や哲学思想の「対立と融和」の動きを検討し、それらを総合して大きな思想的流れとして捉えようとするものであった。

本研究に関わる先行研究は、儒仏道三教交渉史、あるいは神儒仏交渉史として存在するが、それらは各地域、各時代ごとに個々別々に扱われ検討されているものであって、大局的で俯瞰的な視点を欠いている。

そこで本研究は個々の先行業績の成果について、必要に応じて再評価と再解釈とを加え、「総合」という過程を加えることによって、従来とは一歩抜きんできた結果を提示しようとするものである。

本研究は先に科学研究費補助金の交付を受けた基盤研究B（2）「仏教移入が及ぼした東アジアにおける世界観・人間観への影響の研究」を踏まえたもので、仏教が東アジア文化圏においてどのような役割を果たしてきたかという、これまでの研究代表者の連続した問題意識に基づく研究であ

り、仏教が地域と民族の特殊性と、そこから由来する対立を超克して一つの東アジア文化圏全体の共通的精神基盤となりうる有用性を検証しようとしたものである。

2. 研究の目的

本研究は、世界宗教としての仏教が東アジアの漢字文化圏に移入したことにより、既存の哲学・宗教思想にどのような影響を与え、また仏教もどのように変容していったかという問題意識のもと、東アジア文化圏において儒教、道教、神道と仏教との関わりを、その対立と融和の相において捉え、大きく東アジアの宗教思想の流れとして把握することを目的としたものである。

3. 研究の方法

本研究が扱う地域は東アジア文化圏の中では中国・日本を主として扱い、それにインドを加える。また扱う時代は古代から中世までの長期間に及ぶ。それで各地域、各時代におけるテーマとそのもとに数項のトピックをに設定し、研究代表者と研究分担者にそれぞれ割り振って役割を分担した。研究メンバーは各自のトピック研究を行い、それぞれに結果を得る。研究期間の最終年度に全員が数度集まって、各自もちよった成果について議論し、個々の成果を積み上げることによって大きな思想の流れとしての思想史を構築しようとした。各テーマとトピックは次の通りである。

(1) 中国における仏教と儒教の対立と融和

- ① 東晋における仏教受容期の摩擦と受容
- ② 偽経の成立
- ③ 唐代韓愈の仏教批判
- ④ 宋代儒学の仏教批判
- ⑤ 宋代における三教調和
- ⑥ 明代陽明学と仏教

(2) 中国における仏教と道教の対立と融和

- ① 『老子化胡経』と仏教
- ② 道教経典と仏教
- ③ 唐代における道仏二教の先後問題
- ④ 元代における道仏二教の論争
- ⑤ 明代における勸善書と仏教

(3) 日本における仏教と神祇信仰

- ① 神仏習合思想の再評価
- ② 神仏隔離と仏教
- ③ 近世初期における仏教批判

(4) インド仏教と東アジア仏教

- ① インド思想における仏教
- ② インド仏教と中国仏教の距離
- ③ インド仏教と日本仏教の距離

4. 研究成果

研究代表者は、日本仏教の分野で中世鎌倉時代の仏教者明恵を取り上げ、日本の神祇に対する信仰が彼の中で仏教思想とどのように折り合っているのかという問題を検討し、日本の神祇信仰と仏教とが個人の中で混然と融和している様相を明らかにした。

また研究代表者は、古代より叡山天台を中心に日本仏教の中で大きな影響力をもった『法華経』経典が、中世を経て室町時代に至る間にどのように唱導されてきたかという問題を取り上げ、日本の神祇との関わりに注意を払いつつ検討した。

さらに研究代表者は、中国・日本仏教の分野で日本中世末近世始めに出現した談義所における談義講説の所産の一つ、『法華経直談鈔』を取り上げ、その成立と後世における影響を検討した。それは第一に中国天台から日本天台への思想の流れを検証することを第一とし、中国天台の影響を大きく受けている日本の中世末から近世にかけての日本天台が、民衆教化にどのような手段を用い、対応したかを探ることを第二義としたものであった。

また同時にその時代に神仏習合がどのような状況にあったのかを検証するためであった。その結果として、研究代表者はこの時代の日本天台は教学思想について見る限り、従来いわれているように民衆教化のために仏教の平易化を図ったとは言えず、逆に中国天台の影響を大きく残しつつ、教学内容は夾雑物が混入した分だけ、思想価値としては下落したのではないかという結果を得たのである。上記の結果は研究協力者として仰いだフランス国立高等研究院の Rotermond O. Hartmut、Jean-Noël Robert の二教授に成果を提示し、共通の理解を持った。両氏は日本学を専門領域としており、特に Robert 氏は『法華経』のフランス語訳もあり、日本天台の専著もある。研究代表者が研究期間中に毎年国立高等研究院に出向き情報交換を行うとともに、両氏をそれぞれ 2007、2008 年に北海道大学に招聘し、シンポジウムと研究会を開催した。これによって研究成果を国外に発信するとともに研究機関同士の国際交流に貢献した（北海道大学文学研究科とフランス国立高等研究院との間に国際交流協定を締結）。

また他の研究分担者もそれぞれのトピック研究を行い、中国分野では明代における「気」の哲学、また朱子学と陽明学に関する成果があり、仏教と朱子学、仏教と陽明学の対立と融和の基礎的事例研究となった。インド分野では仏教論理学と関わりをもつクマーリラ研究の成果があり、また原

始仏教における『雑阿含』道品と部派仏教の『根本説一切有部毘奈耶薬事』との文献上の関係を解明する成果、また『ブリハッド・アーラニヤカ・ウパニシャッド』研究に関する成果があった。

以上の検討の結果、大きな意義として、仏教が東アジア文化圏全体の宗教的共通基盤として機能しており、しかもそれぞれの宗教の固有の特性を損なっていないという点で、今日の現代世界が抱える宗教と民族の問題解決に一つの有力な指針を示すことができるということが確認された。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 19 件)

- ① 藤井教公 「『法華経直談鈔』における「寿量品」解釈の検討」『印度学仏教学研究』57巻第2号、pp.12-16、2009、査読有
- ② 佐藤鍊太郎 「禅与陽明学」『王陽明的世界（王陽明故居開放典礼暨国際学術研討会論文集）』浙江古籍出版社、pp.181-189、2009、査読有
- ③ 藤井教公 「『法華経直談鈔』における「方便品」解釈の検討」、『印度哲学仏教学』第23号、pp.162-173、2008、査読有
- ④ 藤井教公 「神と仏一神仏習合の諸相」、『在家仏教』第669号、pp.30-45、2007、査読無
- ⑤ 佐藤鍊太郎 「「心外無法」の系譜—王陽明の「心外無理」と山岡鉄舟の「心外無刀」—」、『山根幸夫教授追悼記念論叢 明代中国の歴史的位相』下巻(汲古書院)、pp.505-528、2007、査読無
- ⑥ Yoshimizu Kiyotaka: Reconsidering the fragment of the *B.rha.t.tiika* on inseparable connection (*avinaabhaava*), B.Kellner, H.Krasser, H.Lasic, M.T.Much, H. Tauscher (eds.): *Pramaa.nakiirti.h, Papers Dedicated to Ernst Steinkellner on the Occasion of his 70th Birthday (Wiener Studien zur Tibetologie und Buddhismuskunde 70)* pp.1079-1103, 2007、査読有
- ⑦ Hartmut O. Rotermund: Images des Occidentaux dans le Japon de l'ere Meiji, *Applied Ethics : Global Ethics and Religions II*, pp.1-38, Graduate School of Letters, Hokkaido University, 2007、査読有
- ⑧ 藤井教公 「『法華経直談鈔』の内容検討—『法華経鷲林拾葉鈔』との対比から—」、望月海淑編『法華経と大乘經典の研究』(山喜房仏書林刊行) pp.295-313、2006、査読無
- ⑨ 細田典明 「『雑阿含』道品と『根本説一

切有部毘奈耶薬事』、『仏教学』第48号、pp.1-20、2006、査読有

- ⑩ 吉水清孝 「祭式で虚偽を語ってはならないのは何のためか—定動詞表示と文脈—」、『印度学仏教学研究』、55巻第2号、pp.814-820、2006、査読有
- ⑪ 吉水清孝 「クマーリラによる定動詞接辞の表示理論について」、『印度哲学仏教学』、第21号、pp.298-315、2006、査読有
- ⑫ 佐藤鍊太郎 「敬虔な朱子学者—胡居仁—」、『中国思想の流れ(下)』(晃洋書房刊行)、pp.11-14、2006、査読無
- ⑬ 弐和順 「『論語』学の形成時期における『論語鄭氏注』試訳」、『名古屋大学中国哲学論集』、pp.47-74、2006、査読有
- ⑭ 吉水清孝: The Theorem of the Singleness of a Goblet (grahaikatvanyAya): A MlmAMsA Analysis of Meaning and Context, *Acta Asiatica (Bulletin of the Institute of Eastern Culture)*, 90, pp.15-38, 2006、査読有
- ⑮ 藤井教公 「明恵における神と仏」、『宗教研究』、第79巻第2輯、pp.293-316、2005、査読有
- ⑯ 藤井教公 「室町時代における『法華経』の唱導」、『印度哲学仏教学』、第20号、pp.1-13、2005、査読有
- ⑰ 佐藤鍊太郎 「明末清初の三学案与王学左派」、『儒学与当代文明』 *Confucius and modern civilization* (紀念孔子生誕2555周年国際学術研討会論文集)九州出版、pp.1792-1798、2005、査読有
- ⑱ 細田典明 「『維摩経』の説く「方便」」、『印度哲学仏教学会会報』、第19号、pp.12-15、2005、査読無
- ⑲ 弐和順 「翻訳: 伊東倫厚主編、弐和順責任編集『易学哲学史<第二編 漢唐時代(両漢之部)>』」、『日本周易学会』、248頁、2005、査読無

[学会発表] (計 8 件)

- ① 藤井教公 「『法華経直談鈔』における「寿量品」解釈の検討」、日本印度学仏教学会、2008年9月4日、愛知学院大学(名古屋市)
- ② 藤井教公 「日本天台における「仏種」の解釈」、北海道印度哲学仏教学会、2008年8月30日、北海学園大学(札幌市)、
- ③ 藤井教公 「『法華経直談鈔』における「方便品」の解釈について」北海道印度哲学仏教学会、2007年7月28日、苫小牧駒澤大学(苫小牧市)
- ④ 藤井教公 「貞慶における『法華経』理解—『法華開示抄』を中心に—」、日本印度学仏教学会、2006年9月13日、大正大学(東京都)

⑤藤井教公「止観法門と仏性」、北海道印度哲学仏教学会、2006年8月26日、札幌大谷大学（札幌市）

⑥藤井教公「貞慶と明恵一両者の神祇信仰について」、印度哲学仏教学会、2005年9月10日、北海道武蔵女子短期大学（札幌市）

⑦藤井教公「中国仏教における霊魂観一天台を中心として」、日本佛教学会、2005年9月3日、駒澤大学（東京都）

⑧藤井教公「近世初期法華思想における「仏種」の解釈をめぐって—『法華経直談鈔』を中心に—」、日本印度学仏教学会、2005年7月29日、四天王寺国際仏教大学（羽曳野市）

〔図書〕（計2件）

①佐藤錬太郎『禅の思想と剣術』、財団法人日本武道館、2008年、386頁、

②弐和順『論語珠玉の三十章』、大修館書店、2007年、155頁

6. 研究組織

(1) 研究代表者

藤井 教公 (FUJII KYOKO)

北海道大学・大学院文学研究科・教授
研究者番号：70238525

(2) 研究分担者

佐藤 錬太郎 (SATO RENTARO)

北海道大学・大学院文学研究科・教授
研究者番号：40196291

細田 典明 (HOSODA NORIAKI)

北海道大学・大学院文学研究科・教授
研究者番号：00181503

弐 和順 (YUHAZU KAZUYORI)

北海道大学・大学院文学研究科・教授
研究者番号：20202393

(3) 連携研究者

吉水 清孝 (YOSHIMIZU KIYOTAKA)

東北大学・大学院文学研究科・准教授
研究者番号：20271835

(4) 研究協力者

ROTERMUND O.HARTMUT

フランス国立高等研究院・宗教学部門・教授

JEAN-NOËL ROBERT

フランス国立高等研究院・宗教学部門・教授